

KYODO PR Business Report

第54期（平成29年12月期）中間事業報告書



【経営理念】

我々は情熱と創造性で
顧客の課題解決を図り
100年のコミュニケーションをつなぐ
PRエージェンシーである。

【ビジョン】

No.1 PR



代表取締役社長

谷 鉄也

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループの第54期(平成29年12月期)上半期連結業績の概況をご報告申し上げます。

共同ピーアール株式会社は、前期に引き続き新規リテイナー契約数の伸張および広告代理店との協業強化の結果、売上高1,733百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益57百万円(前年同期比42.0%増)、経常利益54百万円(前年同期比67.4%増)、当期純利益45百万円(前年同期比9.7%増)となりました。売上高につきましては、新規リテイナー契約数増加による好調もありましたが、予想比減となりました。利益面につきましては、人件費の他、人材採用費、ソフトウェアライセンス等の一時費用の増加および貸倒引当金の計上等に伴い、販売費及び一般管理費が増加し、予想を下回る結果となりました。

一方、連結子会社である共和ピー・アール株式会社につきましては、予定していた医療系イベントが延期されたため売上高は減少いたしました。映画のPRに特化した連結子会社である株式会社マンハッタンピープルにつきましては、前期に引き続き、高い興行収入が期待される大型作品を受注しております。

以上より、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,934百万円(前年同期比2.0%減)、営業利益79百万円(前年同期比32.0%増)、経常利益76百万円(前年同期比24.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益60百万円(前年同期比10.9%増)となりました。

引き続き利益率の高いリテイナー契約の維持と新規獲得を図ることにより収益基盤の安定化に努めるとともに、広告代理店や官公庁、学校法人への営業強化に取り組んでまいります。通期の連結業績見通しは、売上高4,127百万円、営業利益217百万円、経常利益213百万円、親会社株主に帰属する当期純利益168百万円を計画しております。中期ビジョン「No.1 PR」を実現し、目標とする業績を達成するため、社員一丸となって全力を尽くしてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。



マスメディアとソーシャルメディアが共鳴する仕組みづくり。

塩津 孝博 (PRアカウント本部 デジタルコミュニケーション部)

平成29年6月1日に「デジタルコミュニケーション部」を新設しました。急加速するメディア環境の変化、生活者の情報接触に関するデジタルシフト、クライアントニーズの高度化をとらえ、デジタル領域におけるサービス強化とビジネス創造に、組織を挙げて取り組むためです。近年、ソーシャルメディアから発生した話題がマスメディアに取り上げられ社会現象となり、企業活動や業績に影響を与えることが増えてきました。このような、マスメディアとソーシャルメディアが共鳴する仕組みそのものを設計し、実行することが我々に求められていると考えます。すでに、「ソーシャルメディアPR」、「ソーシャルライブ記者発表会」、「ローカルインフルエンサー」など共鳴を生み出すためのサービスを開発・リリースし、多数の引き合いをいただいております。現在も継続して新たなサービスを開発しています。PR会社として、これまで培ってきたメディアリレーション業務を最大限活かしながら、外部とのパートナーシップやアライアンスも積極的に行い、今の時代に求められる手法を積極的に取り入れながら顧客の課題解決に努めてまいります。



クライアントに寄り添い、思いを汲み取ることの積み重ね。

鈴木 あすみ (PRアカウント本部 7部)

入社1年目の秋、メディア訪問を重ねる中で仲良くなった雑誌編集者から、5ページに亘る企画の話をいただきました。この企画を通して、クライアントと編集者の間に立ち、両者の考えや思いを汲み取って誌面を完成させていく苦労、そして面白さを経験しました。私たちの仕事のひとつには、クライアントの代わりにメディアへクライアントの商品やサービスを紹介する活動があります。「ただメディアに露出できればいい」というわけではなく、『どのような形での露出が喜ばしいか』をクライアントとメディアの両方の立場から考えることが重要です。この考え方は、1年目の経験が礎です。今では、クライアントからは『私たちのことをよく分かってくれて頼りになる』と褒めていただけるようになり、メディアからも企画の相談を継続していただけるようになりました。クライアントに寄り添い、思いを汲み取り、仕事を進める。基本的なことではありますが、この積み重ねが唯一無二の頼れるパートナーになる方法だと考えます。

「草間彌生 わが永遠の魂」展PR

今年2月に国立新美術館にて開催された世界的アーティスト・草間彌生の展覧会事務局を当社にて行いました。展覧会リリース後に草間先生の文化勲章受章を受け、国内外からの膨大な問合せ対応・当日のメディアオペレーション・取材制限から媒体コントロールなど、課題が大きかった案件ですが、これまでの経験やメディア担当者との信頼関係を生かして対応いたしました。結果として、内覧会300社以上、複数媒体での特集掲載や主催媒体以外の一般紙でも紹介されるなど掲載は800件以上と大きな成果をあげました。この活動が評価され、秋の展覧会へと受注をつなげるだけでなく、関係者や草間先生ご本人からも高い評価をいただいています。



もっと分かりやすく！トイレのピクトグラム標準化

トイレメーカーなどからなる一般社団法人日本レストルーム工業会が今年1月半ば、それまで各社独自のデザインだったトイレ操作のピクトグラム*の標準化を発表しました。これにより「おしり洗浄」や「便座開閉」など、8つの基本操作について標準のピクトグラムが作成され、訪日外国人にも分かりやすいデザインになりました。1964年の東京五輪がきっかけで広く普及したピクトグラムが、2020年東京五輪でさらに見直される。オリンピックを支える企業団体のPRとして大変意義のある案件となりました。



一般社団法人 日本レストルーム工業会「標準ピクトグラム」

※ピクトグラム…絵文字、絵言葉のこと

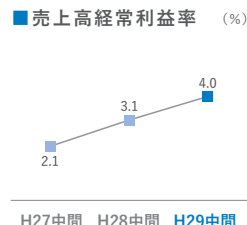
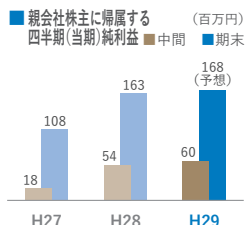
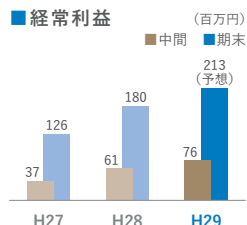
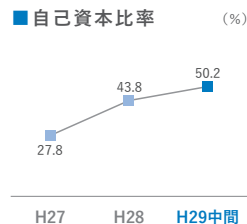
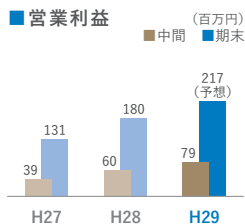
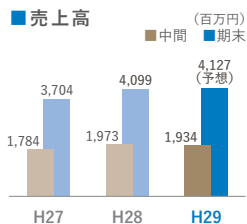
バラエティーに富んだ話題映画作品に数多く携わる！

春休み大ヒットアニメ「SING/シング」(東宝東和/ユニバーサル映画)の宣伝を始め、話題沸騰の将棋業界を舞台にした感動映画「3月のライオン」前後編2部作公開(アスマック)、そして俳優藤原竜也の新機軸で注目の作品「22年目の告白」(ワーナーブラザーズ)と、数々のバラエティーに富んだ話題作品に携わり、ヒットに貢献することが出来ました。



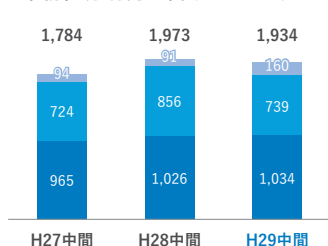
(C)Universal Studios.東宝東和

Financial Highlight | 決算ハイライト |



科目	当第2四半期 平成29年1月1日～6月30日	構成比	前第2四半期 平成28年1月1日～6月30日	構成比	前年比
売上高	1,934	100.0%	1,973	100.0%	98.0%
売上総利益	1,216	62.9%	1,148	58.2%	105.9%
販売・一般管理費	1,137	58.8%	1,088	55.1%	104.5%
うち、人件費	902	46.6%	888	45.0%	101.5%
営業利益	79	4.1%	60	3.1%	132.0%
経常利益	76	4.0%	61	3.1%	124.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	60	3.1%	54	2.8%	110.9%
売上高経常利益率	4.0%	-	3.1%	-	-
自己資本比率	50.2%	-	43.1%	-	-
連結・EPS	49.47円	-	44.62円	-	-
一株当たり配当金	0.00円	-	0.00円	-	-

■ 業務区別売上高 (単位: 百万円)



リテイナー …………… 企業などの広報活動を6ヶ月以上の契約をもって支援およびコンサルティングしていくもの
であります。PR戦略の策定からパブリシティ(記事化)業務、不祥事発生時の危機管理広報
対応支援など幅広いサービスを行っております。

オプション …………… リテイナー契約顧客に対する一時的な付加サービスを言います。

スポット …………… 企業などの6ヶ月未満の広報活動支援を言います。ニュースリリースの作成・配信などのパ
ブリシティ活動から、展示会や美術展等の開催告知目的のPR活動、記者発表会の企画・運営
等まで各種のニーズに対応します。

ペイドパブリシティ …… 新聞や雑誌等の特定のページを購入して、顧客の意図する内容を記事形式で掲載していく
手法を言います。

Consolidated Financial Statements | 連結財務諸表 |

■ 連結貸借対照表 (要旨)

科目		当第2 四半期末	前期末
資産の部	流動資産	1,311	1,446
	固定資産	361	338
	資産合計	1,673	1,784
負債の部	流動負債	678	799
	固定負債	152	202
	負債合計	831	1,002
純資産の部	資本金	419	419
	資本剰余金	360	360
	利益剰余金	57	△3
	自己株式	△16	△16
	株主資本合計	822	761
	その他の包括利益累計額合計	17	19
	新株予約権	3	0
	純資産合計	842	781
	負債純資産合計	1,673	1,784

※当第2四半期末:平成29年6月30日現在 (単位:百万円)
※前期末:平成28年12月31日現在

■ 連結損益計算書 (要旨)

科目	当第2四半期 累計	前第2四半期 累計
売上高	1,934	1,973
売上原価	717	825
売上総利益	1,216	1,148
販売費及び一般管理費	1,137	1,088
営業利益	79	60
営業外収益	1	10
営業外費用	4	9
経常利益	76	61
特別損失	1	-
税金等調整前四半期純利益	75	61
法人税等	14	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	60	54

※当第2四半期累計:平成29年1月1日～6月30日 (単位:百万円)
※前第2四半期累計:平成28年1月1日～6月30日

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	当第2四半期 累計	前第2四半期 累計
営業活動による キャッシュ・フロー	△5	37
投資活動による キャッシュ・フロー	△6	△13
財務活動による キャッシュ・フロー	△61	41
現金及び現金同等物の 四半期末残高	470	470

※当第2四半期累計:平成29年1月1日～6月30日 (単位:百万円)
※前第2四半期累計:平成28年1月1日～6月30日

Company Profile | 会社情報 |

■ 取締役及び監査役 (平成29年6月30日現在)

取締役会長	古賀 尚文
代表取締役社長	谷 鉄也
取締役副社長	沼田 英之
専務取締役	西井 雅人
取締役	木村 忠久
取締役	原野 圭司
社外取締役	平 英毅
常勤監査役	中田 一久
社外監査役	行本 憲治
社外監査役	黒澤 基弘

※1.社外取締役である平英毅氏および社外監査役である行本憲治氏および黒澤基弘氏は、株式会社東京証券取引所の規定する独立役員であります。
※2.監査役のうち、行本憲治氏および黒澤基弘氏は社外監査役であります。

■ 大株主 (平成29年6月30日現在)

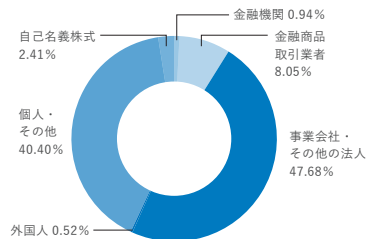
株主名	持株数	持株 比率
(株)新東通信	381,600株	31.03%
(株)テクノロジーグローバル研究所	200,000株	16.26%
SMBC日興証券(株)	69,400株	5.64%
佐藤 友亮	55,800株	4.54%
共Pグループ従業員持株会	45,800株	3.72%
山本 文彦	27,500株	2.24%
高 長樹	27,000株	2.20%
上村 颯	22,400株	1.82%
百溪 直司	21,000株	1.71%
鈴木 泰弘	19,100株	1.55%

注)持株比率は自己株式(30,365株)を控除して計算しております。
また、自己株式につきましては、上記の表から除外しております。

■ 株式状況 (平成29年6月30日現在)

発行可能株式総数	5,040,000株
発行済株式の総数	1,260,000株
株主数	663名

■ 所有者別株式分布状況 (平成29年6月30日現在)



社 名 共同ピーアール株式会社(証券コード:2436)
KYODO PUBLIC RELATIONS CO., LTD.
所在地 〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル
電話:03-3571-5171(代) FAX:03-3574-1005
創 業 1964年(昭和39年)11月
資本金 4億1,990万円
社員数 204名(単体)、242名(連結)
(平成29年6月30日現在)